

# ΕΥΧΑΡΙΣΤΙΑ

## ユーカリスティア

知っておきたいキリスト教のことば (47)

感謝 かんしゃ

主なる神に感謝しましょう、感謝と賛美はわたしたちの務めです。

この応答は、聖餐式の中、奉献(ささげ物)が終わって「感謝聖別」に入った後に、司式者と会衆とで唱えるものです。

「感謝」とは、「ありがたく感じて謝意をあらわす」ことです。それでは聖書の中では、何に対して謝意をあらわすのでしょうか。

神さまはその独り子であるイエス様をわたしたちのために与えてくださいました。また日々の生活の中で、わたしたちは言葉では言い尽くせないほどのお恵みをいただいています。それらのことに対して「ありがとう」と言い、賛美し、自らをおささげすることが「感謝」なのです。

パウロは新約聖書の多くの手紙を書いた人物ですが、その挨拶の中で、「感謝」という言葉を多く用いています。手紙を読んでもみると、パウロはまず神さまに感謝しています。そしてなぜ感謝しているのかを述べるのですが、その理由の中に、宛先の人との関わりへの感謝が含まれています。

また、「感謝」という言葉はギリシア語で「ユーカリスティア」といいます。「聖餐式」はしばしば「ユーカリスト」と呼ばれます。このユーカリストという言葉の中には「感謝・喜び・祝福」という意味があり、二つの言葉の語源は同じです。つまり聖餐式そのものが感謝の集いであるのです。

「どんなことにも感謝しなさい」。わたしたちが神さまから与えられたたくさんの祝福をおぼえるときに、この言葉は強要するものではなく、勧めの言葉となります。どうぞ今日からお祈りのたびに、「神さま、ありがとうございます」という言葉を忘れないようにしてくださいね。最後まで読んでいただいて、感謝です。

次回は「犠牲」です。お楽しみに。



「イエスが癒した10人の重い皮膚病患者、戻ってきたのは一人のサマリア人だけだった。」

The Orthodox Church in America より

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

(テサロニケの信徒への手紙 I  
5章16~18節)

